



ヘブル語講座アウカルト

【アーメン】

●「神の約束はことごとく、この方において『はい』となりました。それで私たちは、この方によって『アーメン』と言い、神に栄光を帰すのです。」(IIコリント1・20)とあります。

●「はい」とは「その通りになる、実現する、成就する」という意味で、ヘブル語でもギリシア語でも「アーメン」と言います。この言葉を最も多く使ったのはイエシュア(イエスのヘブル名です。福音書にある「まことに、まことに、あなたがたに言います」の「まことに」が「アーメン」だからです。実にイエシュアこそ「アーメン」である方(黙示3・14)です。私たちが信じようと信じまいと、神の約束はすべて「この方」によって必ず実現するのです。ですから、聖書をつまびらかに読み、神の約束を知ること、私たちは心躍るような喜びを得るのです。

アーメン

アーメン

●「アーメン」の語源は「アーマン」です。この言葉が聖書で初めて登場するのは創世記15章で、神がアブラハムに対して、天を見上げて星の数を数えなさいと言われた場面です。そして「あなたの子孫は、このようになる」と約束され、「アブラムは『主』を信じました。それで、それが彼の義と認められた」とあります。この「信じ」が「アーマン」です。ですから、

「見ないで信じる人たちは幸いです」と主は言われました。終わりの時代にある私たちは、神の計画を知り、その完成を待ち望みつつ、「アーメン」と言える信仰の生涯を歩みたいものです。(銘形秀則)

「アーメン」は「神の約束を信じること」と深く結びついており、同時に、「イエシュア」とも深く結びついています。例えば、ガラテヤ書3章23〜26節で「信仰」ということばを「イエシュア」に置き換えると、より理解できます。「23 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。24 ……それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。25 しかし、信仰が現れたので、26 あなたがたはみな、信仰により、…神の子ともです。」

はじめに神は…

ヘブル語の第二の文字「ベート」は、「ベート」は「家、部屋」をあらわした文字です。

それは、天からおりて来て、地に建てられる。

「神の家、神の国」をあらわしています。

だから私たちは、天におられる父なる神に、「御国が来ますように」と祈るのです。

「しっかり、わたしはすぐに来る。」

「アーメン。主イエスよ、来てください。」

作・神田 満

編集後記 (史料・機関誌委員会から)

長期戦の新型コロナウイルスが、私達の生活を一変させました。日本中が、世界中がこの戦いの中にあり、今悲しみや苦しみの最中にある多くの方々に神様の憐れみと救いの御手がありますように祈るばかりです。

けれども自然は移り、紫陽花が咲き乱れ、庭の夏野菜も収穫開始…梅雨空の晴れ間にセミの元気な声も聞こえます。

この夏の天城山荘での修養会に代わって、文明の利器、オンラインによる夏期修養会が計画されました。教会で、個人で、全国の多くの兄弟姉妹との、違った形での恵みと祝福の時が備えられた事を感じて受けとめ、期待して待ち望みたいと思います。

出て行こう!! ～隣人から世界へ～

ローマ10・14〜15

発行所

宗教学者 日本神の教会連盟

東京都練馬区羽沢二丁目一九

練馬神の教会内

発行者

相原典之

編集者

沼 慎二

福岡県筑紫野市二日市北二丁目一八六

日本神の教会連盟 二日市栄光キリスト教会

電話&FAX 〇九二(九二四)五〇九八